

教育研究業績書

所属	職名	氏名	学位
幼児教育学科	准教授	小松和佳	修士(教育学) 博士(教育学)

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
(1) 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)	令和5年4月～現在に至る	ユニバーサルデザインに基づく授業を実施するため、講義内容を事前にGoogleのCLASSルームに投稿し、事前学修ができるようにしたり(資料は印刷し授業前に配布する)、授業形態や流れに不安を持つことがないように授業の流れや方法を適宜提示したり、必要に応じて電子機器の活用を認めたりする等行っている。この支援は、合理的配慮が必要でない学生にとっても認知に負荷がかかることがないため、より授業に集中することができる。
(2) 作成した教科書・教材・参考書	平成27年2月	「アプローチカリキュラム スタートカリキュラム 事例集改訂版(高知市教育委員会)」に、平成25年度実践したスタートカリキュラムの事例を提供した。この事例集は、高知市において幼保小連携・接続の実践及び研修において広く使われた。
(3) 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成24年4月1日～平成25年3月31日 平成25年6月4日 平成25年8月21日 平成25年11月11日 平成25年11月20日 平成26年1月16日	平成24年度高知県教育公務員長期研究生として、「小学校教育課程を踏まえた就学前(5歳児後半)からのカリキュラムのあり方について」を研究テーマとし、「保育所・幼稚園と小学校の接続に関する研究」を行い、研究成果を教育実践の場で活かした。 平成25年度保幼小連携教育講座Ⅰ期(高知県教育センター主催)において、保幼小接続期後期にあたるスタートカリキュラムの授業実践を保育者、小学校教員を対象に公開し、円滑な保幼小接続に関する具体的な教育実践について報告を行った。 平成25年度保幼小連携教育講座Ⅱ期(高知県教育センター主催)において、幼児期と児童期の教育を担う保育者、小学校教員を対象に、保育者と共同的に開発した「アプローチカリキュラム」について報告を行った。 平成25年度香南市保幼小中連携教育研究会において、香南市内の保育者及び小学校教員に対し授業を公開した後、保育者と共同的に開発した「アプローチカリキュラム」及び保幼小接続に必要な「学びのつながり」について報告を行った。 香南市教育研究部会(生活科部会)において、保幼小接続期における5歳児と小学校1年生との交流活動の授業を、香南市内生活科部会所属の小学校教員に公開した後、保幼小接続における交流活動の在り方について報告を行った。 第37回高知県児童詩教育研究大会において、幼児期の発達と学びを踏まえ、子どもの「書きたい」「伝えたい」という子どもの思いを育む学級経営について実践報告を行った。

	平成30年6月7日, 8日	平成30年度保幼小接続期実践プラン研修会(高知県教育委員会主催)において, 高知県内の保育者と小学校教員を対象に, 地域の実態に応じた保幼小接続期実践プランの作成及び幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を推進するため, 在籍校における保幼小接続の取組(平成29年度, 平成30年度)について実践報告を行った。
	平成30年4月1日～平成31年3月31日	初任者指導教員(拠点校)として, 拠点校である在籍校の初任者2名を含む計3校に配属された初任者4名に対して, 授業実践力向上及び児童理解を促す指導, 助言を行った。
	平成31年12月6日	平成31年度「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクトにおいて, 算数科の単元における系統性を捉え, 子どもに必要な見方・考え方を育成する授業実践を公開し, 資質・能力ベースの単元デザインの基づく授業実践の方法を提案した。
	令和5年4月～令和7年2月	探究学習アドバイザーとして私立新田高校を訪問し, 幼児期及び児童期の教育に興味をもっている学生と一緒に探究学習を行った。
	令和5年12月7日	松山東雲学園が主催する令和5年度「保育実践講座」において, 「子ども理解を深めるー保育の質を確保・向上させていくためにー」をテーマとした講座の第4回を担当した。「乳幼児期から児童期へ子どもの育ちと学びをつなげる」というテーマで主に, 幼小接続期についての講話を行った。
	令和6年6月23日	令和6年度日本特別活動学会第1回研究シンポジウムにおいて, 「小学校における特別活動を通じた教師としての変容」の題目で, 令和3年, 4年度特別活動における主に学級活動(1)に取り組んだ2年間の実践について報告した。
	令和6年7月9日	愛媛県立伊予高校において「幼保小の連携・接続について(架け橋プログラム)」の出張授業を1年～3年生33名に対して行なった。「なぜ幼保小連携・接続が必要なのか?」, 「円滑な幼保小連携・接続のためには? (架け橋プログラム)」について, 写真や映像等を用いて講話を行った。
(4) その他教育活動上特記すべき事項	平成20年4月1日～平成26年3月31日	高知県児童詩教育研究会に6年間所属し, 「やまもも編集委員」として高知県児童詩集「やまもも」の作品選考に携わった。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					
学びを創る教育評価現場と結ぶ教職シリーズ15	共著	平成29年3月	あいり出版	岡谷英明, 野中陽一朗, 小松和佳, 他15名	pp.51-53
(論文)					

1.保育カンファレンスは保育者の専門的成長に影響を及ぼすか？－PAC分析により見出された個々の保育者の事例を参照しながら－	共著	平成29年3月	PAC分析研究創刊号	小松和佳, 野中陽一朗, 玉瀬友美	pp.22-33
2.保育カンファレンスにおける保育者の省察	単著	平成29年3月	高知大学大学院総合人間自然科学研究科教育学専攻修士論文		pp.1-161
3.教職及び保育者志望の学生が捉える「遊びの中の学び」とは？	共著	平成30年3月	学習開発学研究(広島大学研究紀要)11号	小松和佳, 野中陽一朗	pp.77-87
4. 保育カンファレンスにおける保育者の専門性向上に関する研究－保育者同士の言葉の相互作用に着目して－	単著	平成31年3月	広島大学大学院教育学研究科紀要第一部(学習開発関連領域)第68号		pp.21-30
5. 子どもの発達と学びの連続性を共通理解するために－保幼小合同研修プログラムについての一考察－	単著	令和2年12月	広島大学大学院人間社会科学部研究科紀要「教育学研究」第1号		pp.305-313
6. 保育カンファレンスにおける保育者の専門性向上についての研究	単著	令和2年12月	広島大学大学院教育学研究科教育学習科学専攻博士論文		pp.1-107
7. 小学校低学年における「話し合い活動」の実践研究－合意形成のプロセスに着目して－	単著	令和4年3月	相山女学園大学教育学部研究紀要第15号		pp.81-89
8. 小学校低学年における「話し合い活動」の実践研究Ⅲ－話し合いの成長を促す指導の在り方－	単著	令和6年3月	松山東雲短期大学研究論集第55号		pp.34-46
9. 保育者養成校における授業プログラムについての予備的調査－「幼小連携・接続」に着目して－	単著	令和7年3月	松山東雲短期大学研究論集第56号		pp.1-13
10. 養成校における保育実践力向上に関する一考察－エピソード記録に着目して－	共著	令和7年3月	松山東雲短期大学研究論集第56号	小松和佳・加納章・中村年男	pp.14-25
(実践報告等)					
1. 保育所、幼稚園と小学校の接続に関する研究 ～小学校教育課程を踏まえた就学前(5歳児後半)からのカリキュラムのあり方について～(報告書)	共著	平成15年3月	平成24年度高知県教育センター研究報告書	小松和佳, 尾中映里	

2. 小学校2年生の逆思考問題に関する実践報告ー児童のメタ認知的方略の活用に着目してー(実践報告)	単著	令和3年3月	広島大学大学院人間社会科学研究所科学習開発学領域 学習開発学研究第13号		pp.141-150
3. 小学校低学年における「話し合い活動」の実践研究ーⅡー合意形成のプロセスに着目したシーケンス構造分析の基礎的資料ー(資料)	単著	令和4年3月	椋山女学園大学教育学部研究紀要第15号		pp.233-287
4. 子どもの発達と学びの連続性を共通理解するためにⅡーA小学校区における保幼小合同研修会の事例よりー(実践報告)	単著	令和5年3月	椋山女学園大学教育学部研究紀要第16号		pp.163-174
5. 養成校における実践力向上に関する一考察ー「幼稚園観察実習」におけるエピソード記録に着目してー(報告書)	共著	令和6年4月	令和6年度中・四国保育士養成協議会総会資料	小松和佳・加納章・中村年男	
(学会発表)					
1. 保育カンファレンスにおける保育者の意識の変容(ポスター発表)	共著	平成28年5月	日本保育学会第69回大会(於:東京学芸大学)	小松和佳, 玉瀬友美	
2. 保育カンファレンスにおける保育者の語りのプロセス(ポスター発表)	共著	平成28年10月	日本教育心理学会第58回総会(於:香川大学)	小松和佳, 玉瀬友美	
3. 保育カンファレンスは保育者に何をもたらすのか(1)ーPAC分析に基づく探索的研究ー(ポスター発表)	共著	平成28年10月	中国四国心理学会第72回大会(於:東亜大学)	小松和佳, 玉瀬友美, 野中陽一朗	
4. 保育カンファレンスは保育者に何をもたらすのか(2)ーPAC分析に基づく探索的研究ー(ポスター発表)	共著	平成29年3月	日本発達心理学会第28回大会(於:広島大学)	小松和佳, 玉瀬友美, 野中陽一朗	
5. 教職及び保育者志望の学生が捉える「遊びの中の学び」とは?	共著	平成29年9月	日本教育心理学会第59回総会(於:名古屋大学)	小松和佳, 野中陽一朗	
6. 保育カンファレンスにおいて保育者が捉える子どもの発達と学びとは?ー「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に着目してー(ポスター発表)	共著	平成30年9月	日本教育心理学会第60回総会(於:慶應大学)	小松和佳, 野中陽一朗, 森敏昭	

7. 子どもの発達と学びの連続性を共通理解するために－保幼小合同研修プログラムについての一考察－（ポスター発表）	単著	平成31年9月	日本教育心理学会第61回総会 （於：日本大学）		
8. 保育カンファレンスにおける保育者の専門性向上に関する研究（2）－保育者の専門性向上を促す要因に着目して（ポスター発表）	共著	令和2年9月	日本教育心理学会第62回総会 （於：総会発表論文集掲載による発表）	小松和佳, 井上弥	
9. 小学校低学年における「話し合い活動」の実践－合意形成のプロセスに着目して－（ポスター発表）	単著	令和3年9月	日本教育心理学会第63回総会 （於：オンライン）		
10. 保育者養成校における授業プログラムについての一考察－「幼保小連携・接続」に着目して－（ポスター発表）	単著	令和6年9月	日本教育心理学会第66回総会 （於：アクトシティ浜松）		
（外部資金導入実績）					
1. 養成校における保育者としての実践力向上に関する一考察－「幼稚園観察実習」におけるエピソード記録に着目して－	共著	令和5年6月～令和6年3月	令和5年度中・四国保育士養成協議会教職員研究費助成	小松和佳, 加納章, 中村年男	

Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

（学会活動）	
平成27年 5月～現在に至る	日本教育心理学会 会員（現在に至る）
平成27年 5月～現在に至る	日本発達心理学会 会員（現在に至る）
平成27年 9月～現在に至る	日本保育学会 会員（現在に至る）
平成28年 7月～令和5年3月	中国四国心理学会 会員（令和5年3月まで）
平成28年10月～現在に至る	日本乳幼児教育学会 会員（現在に至る）
平成28年10月～現在に至る	日本教育実践学会 会員（現在に至る）
令和 3年 8月～現在に至る	日本特別活動学会 会員（現在に至る）
（社会活動）	
平成20年 4月～平成26年年3月	高知県児童詩教育研究会編集員
平成27年10月～現在に至る	日本教育カウンセラー協会 会員
平成27年10月～現在に至る	日本スクールカウンセリング推進協議会 会員